
次元戦記TORU番外編 その妹美少女につき

神村律子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

次元戦記TORU番外編 その妹美少女につき

【Nコード】

N9129J

【作者名】

神村律子

【あらすじ】

喧嘩バカの高校生、矢田通の妹は、彼とは全く似ていない美少女である。

東京。その一角にある杉野森学園。その高等部二年に、とんでもない喧嘩バカがいた。

その名は矢田通。やだとおめチビツ子なのに、強烈に強い。同級生はおるか、その辺りのワル共は皆、その名を聞くだけでビビり、その声を聞くだけで逃げ出すほどだ。

そんな矢田通の噂を聞き、他の地域のワルが彼を倒しに来るが、誰一人として敵かなう者はなく、矢田通の不敗神話は磐石だった。遂には暴力団からスカウトが来るほどになったが、通はそのスカウトを叩きのめして、暴力団の組長の家まで乗り込み、全員半殺しにし、組長に、

「もう二度とこのような事は致しません」

と念書を書かせた。

何故彼がここまで強いのかは誰も知らない。

一説によると、一度死にかけてから更に強くなったらしい。

そんな事で、一時は誰も矢田通に挑もうとする連中はいなくなつた。

しかし、そのままですむほどワルの世界は大人しくはない。

そんな大人しくしてられない連中の中に、特に矢田通に恨みを持つ男がいた。そいつの名は、石動允。いするまこと杉野森学園とはライバル校関係にある大東苑学院だいてんえんがくいんの生徒だ。

「俺達は正直過ぎた」

允は仲間を集めて、体育館倉庫で作戦会議中だった。もちろんまだ授業中である。

「あの喧嘩バカに真正面から挑むなんて、無謀だった」
允の言葉に皆が頷く。

「あれほどの男にも、弱点があつたのさ」

おお、とどよめく。允は得意満面で、

「奴の妹の久美子を搔^かつ攫^{さら}う。んで、奴を大人しくさせてボコる」と言った。しかし、異論が出た。

「俺は久美子ちゃんにはそんな事したくない」

「そうだ。あの子は本当にいい子だ。あいつの妹だなんて信じられないくらいな」

允は啞然とした。

「お前ら、矢田の妹に惚れてるのか？」

「おう！」

そいつらは、允に向かって右腕の袖を捲^{まく}った。二の腕に「久美子命」とマジックで書かれている。

「バカ共が……」

允は呆れた。

「消える」

允の目つきが変わった。「久美子親衛隊」は、逃げるように倉庫から出て行った。残りは五人だ。

「だけどさ」

残った中の一人が言った。

「何だ？」

まだ不満があるのか、と允はそいつを睨んだ。

「久美子には、いつも大山がついてるぜ」

大山とは、矢田の舎弟を自称する、久美子の同級生だ。身長は二メートルを超え、体重は百キロを超える巨漢だ。喧嘩も滅法強いと言われている。

「確かに奴も強いが、五人がかりなら潰せる。でも手早くやらねえと、矢田に気づかれる」

「ああ」

皆、「矢田」と言われただけで、額に汗を滲ませる。

「てめえら、ビビり過ぎなんだよ。奴の名前くらいで汗掻いてるんじゃないねえよ」

「お、おう」

允はニヤリとして、

「決行は今日の放課後。いいな」と言った。

矢田久美子、中学二年。

杉野森学園の中等部に通っている。

兄とは似ていず、同学年は言うに及ばず、上級生、下級生、高等部、果ては他校にまで親衛隊やファンクラブがあるほどの美少女だ。でも本人は至って謙虚で、そんな事で自惚れたりしない。

その性格の良さが、更にファンクラブ増加を加速させているが、彼らは決して久美子に近づこうとはしない。遠くから見ているだけだ。何しろ、久美子の兄は、ヤクザもビビる矢田通なのだから。下手な事をすれば、命が危ないのだ。一度久美子に手紙を渡した阿呆がいて、通にもう少しで殴られるところだった。久美子が間に入り、その阿呆は助かった。

それからというもの、久美子には男が全く近づかなくなり、体育大会のフォークダンスの時も、兄貴が見に来るのではないかとクラス男子が怯え、久美子は参加を見合わせた。

でも久美子は兄を嫌ったりしない。幼くして両親を事故で同時に失い、兄と二人きりで生きて来た彼女は、兄が自分を大切に思っている事をよく知っているので、やり過ぎの兄を怒らない。

時々寂しくなる事もあるが、それでも彼女は暗くなる事もない。

「また明日ね」

久美子は校門の前でクラスメートと別れ、家路に着いた。

「久美子さん」

後ろから大山がついて来る。

「大山君。どうしたの？」

久美子は立ち止まって大山を見上げた。彼女も身長百六十センチと女子では大きい方だが、それでも大山は遥かに大きい。

「妙な噂を耳にしました」

「え？」

「大東苑学院の石動が、矢田さんを狙っているとか」

大山は小声で言った。久美子は顔をしかめて、

「仕方ないわね、お兄ちゃん。やり過ぎなのよ、相手に対して」
「はあ」

久美子は通が喧嘩ばかりしているのを嘆いている。もちろん、兄だけが悪いのではないが、挑んで来た相手を足腰立たなくしてしまうので、余計怨まれるのも事実なのだ。

「でも、手加減すると、連中が付け上がるんですよ」

大山はまるで上級生に話すように久美子に言う。久美子は歩き出して、

「まあ、お兄ちゃんはアメリカ軍と戦っても負けないだろうから、心配してないけど」

「それはそうなんですが」

大山は久美子を追いかけながら言った。そして、二人が角を曲がった時だった。

「グオ！」

大山の後頭部を、いきなり金属バットが襲う。

「何？」

久美子が振り返ると、大山が倒れるところだった。

「大山君！」

久美子が大山に駆け寄る。

「に、逃げて下さい、久美子さん……」

大山は頭から血を流しながら言った。

「へへへ、さてと。一緒に来てもらおうかね、矢田久美子さん」
石動允が、金属バットを背負い、ニヤニヤして言った。

「どこへ行くの？」

「いいとこさ」

「嫌だと言ったら？」

久美子は怯まない。さすが矢田通の妹である。允はフツと笑って、
「そしたら、このデブをボコる」

「……」

久美子は大山を見てから、

「わかったわ。行きましょう」

「ものわかりがいいや。兄貴とは違うねえ、久美子ちゃん」

允は久美子の肩に手を回した。

「や、やめろ、てめえ……」

大山がフラフラしながら立ち上がる。

「まだ寝てる、デブが！」

允以下六人が、大山を蹴った。

「く……」

大山はまた倒れた。

「さあ、行こうか、久美子ちゃん」

允はけたたましく笑い、久美子連れて去ってしまった。

「く、くそ」

大山はポケットから携帯を取り出し、通に連絡した。

「矢田さん、やばいっす。久美子さんが、大東苑学院の石動に……」

大山は通の返事を聞いて、

「わ、わかりました……」

と携帯を切った。

久美子達は、河川敷に来ていた。

「ここがいいところなの？」

久美子は允を睨んだ。すると允は、

「おお、目だけは兄貴と同じで、凄みがあるねえ、久美子ちゃん。
でも、全然怖くないよお」

とバカにしたように言って笑った。

「さてと」

久美子は持っていた鞆を地面に置き、周囲を見渡した。

「見物の人が来ないうちに、終わりにするわね」

「は？ 何言ってるのさ、久美子ちゃん？」

允がヘラヘラしながら久美子に近づく。その時だった。

「えい！」

いきなり久美子の正拳が、允の鳩尾みそおちに炸裂した。

「グエエエエ……」

允は涎よだれを垂らしながらそのまま前のめりに倒れた。

「な、何だ？」

他の五人は、ギョツとして久美子を見た。

「いくらお兄ちゃんが強くても、いつも守ってもらえるとは限らない。だから私も強くなったのよ」

まさに瞬殺であった。久美子の蹴りと突きが次々に決まり、阿呆共はたちまち倒れ伏した。

「良かった、誰にも見られなくて」

久美子はニコツとして鞆を持つと、

「じゃあね」

と言い、河川敷を去った。

「あ、甘かった……」

地獄の苦しみを味わいながら、允は呟いた。

「久美子さん！」

大山が走って来た。久美子は驚いて、

「ダメよ、そんな状態で走ったりしたら」

「平気です。それより、連中は？」

大山は辺りを見回しながら尋ねた。久美子はニコツとして、

「もう帰ったわよ。用がすんだみたい」

「そ、そうですか」

大山は何故か汗を掻いていた。

（矢田さんに心配するなって言われたけど、もしかしてあの六人、久美子さんに……）

「何、大山君？」

久美子は不思議そうな顔で大山を見上げた。

「あ、いや、何でもないです」

ある意味久美子さんの方が矢田さんより怖い、と思う大山だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9129j/>

次元戦記TORU番外編 その妹美少女につき

2011年10月5日01時17分発行